

Learning for tomorrow ～明日への学び～

SUMASHUKU通信

SUMA GAKUEN SHUKUGAWA 2026
合格おめでとう号

- 02 ——— 理事長、学園長あいさつ
03 ——— 高等学校校長、高等学校教頭あいさつ
04 ——— 合格体験記：神戸大学・大阪大学・北海道大学
08 ——— 2026年度大学合格実績



SUMASHUKU通信

SUMA GAKUEN SHUKUGAWA 2026

2026年4月21日発行 発行/須磨学園 夙川中学校・高等学校
〒652-0043 兵庫県神戸市兵庫区下山11-7-1 TEL・078-578-7226 FAX・078-578-7245

06012120

2026年度
入試合格者数

現役生徒数 **112**名()は既卒生

2026年4月22日現在

国公立大学(大学校含む)

大阪大学	3
神戸大学	3
北海道大学	4(1)

小樽商科大学	1
弘前大学	1
宇都宮大学	1
滋賀大学	1
鳥取大学	2
岡山大学	1
徳島大学	1
高知大学	2
琉球大学	1

旭川市立大学	1
横浜市立大学	1
都留文科大学	1
公立小松大学	1(1)
京都市立芸術大学	1(1)
福知山公立大学	1
大阪公立大学	1
兵庫県立大学	4
神戸市外国語大学	2
神戸市看護大学	1
香川保健医療大学	1
長崎県立大学	1

■大学校	
防衛医科大学校	2
水産大学校	1

医学系統

国公立大学・大学校

■医学部医学科	
神戸大学	1
防衛医科大学校	1

■看護学科	
神戸市看護大学	1
香川保健医療大学	1
防衛医科大学校	1

私立大学

■医学部医学科	
国際医療福祉大学	1
金沢医科大学	1(1)
関西医科大学	3

薬学部(6年制)

■関西三葉	
神戸薬科大学	2(1)

学校説明会・見学会等の
須磨学園 夙川中学校・高等学校
最新情報は
ホームページをご覧ください！

私立大学

■早慶	
早稲田大学	2
慶應義塾大学	2

■上理	
東京理科大学	4

■G-MARCH	
明治大学	1
中央大学	1
法政大学	3

■関関同立	
関西大学	14
関西学院大学	36(3)
同志社大学	6
立命館大学	24(1)

■産近甲龍	
京都産業大学	9
近畿大学	60(2)
甲南大学	15(4)
龍谷大学	13



<https://www.sumashuku.jp/>

中学校 いずれもお申込みが必要です。
詳しくはホームページまたはお電話にてお問い合わせください。

学校説明会	
場所…本校	6/27 ㊦ 時間…10:00～12:00
Zoomライブ配信	Web受付開始日時 6/1 ㊦10:00～

オープンスクール	① 5/24 ㊦ 時間…9:30～12:30
場所…本校	② 9/6 ㊦ ③ 10/18 ㊦
	①Web受付開始日時 4/27 ㊦10:00～ ②Web受付開始日時 8/3 ㊦10:00～ ③Web受付開始日時 9/7 ㊦10:00～

学校説明・入試説明会	
場所…本校	11/28 ㊦ 時間…10:00～12:00
Zoomライブ配信	Web受付開始日時 10/26 ㊦10:00～

高等学校 詳しくはホームページをご覧ください。

オープンハイスクール	
場所…本校	8/9 ㊦ 時間…10:00～12:30
Zoom配信	Web受付開始日時 6/16 ㊦10:00～

学校入試説明会・見学会
場所…本校
Zoom配信 (Zoomライブ配信は10/24、12/5のみ)

10/24㊦・10/31㊦・11/8㊦
11/29㊦・12/5㊦

時間…10:00～12:00
Web受付開始日時 全日9/28 ㊦10:00～

※自家用車でのご来校はご遠慮ください。



理事長

西 泰子

中高一貫2期生、高等学校5期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

この3年間（6年間）を振り返ってみると色々なことがありました。新型コロナウイルス感染拡大のため、学校生活は大きく変わりました。

コロナ禍の中、それでも皆さんは受験に向けてひたむきに努力を積み重ねられました。誰もが初めて経験するオンラインでの授業になり、普段にも増し受験の準備は大変だったと想像します。学校に来られずに自宅で勉強していた時間はさぞかし孤独な時間だったと思います。

しかし、この時間はまたとない「学びの機会」でもありました。先生たちは何が正解なのか分からない中、「皆さんにとつていい」と思われることを試行錯誤しつつも一生懸命やりました。皆さんも先生たちを信じ、学びを止めることなく続けられました。

クラスメートや先生たちと直接関わることができない時間に学んだことは知識だけではなかったと思います。自分の頭で考えて答えをだしていくこと。人との関わりの中で私たちは生活していること。困難を共有しともに乗り越えていくこと。様々なかたちの学びがありました。皆さんにもたらされた大学入試の結果はそれぞれだったかもしれませんが、皆さんがこの間に経験された「学び」は確実に将来に続く学びだと思っています。

これから先、社会のあり方は以前とは変わっていくかもしれませんが、これからも学びを止めることなく、「なりた自分」を実現するために努力を積み重ねていっていただきたいと思います。皆さんの引き続きのご健闘とご活躍を応援しています。



高等学校校長

土屋 博文

中高一貫2期生、高等学校5期生の皆さん、このたびの大学合格おめでとうございます。皆さんは本校の新たな歴史を築きました。皆さんの努力と成長に心から敬意を表します。

本校では「Learning for tomorrow ～明日への学び～」を学びのテーマに掲げてきました。皆さんはこの理念のもと、日々の授業に集中し、理解を深める姿勢を貫いてきました。放課後の特別講座に積極的に参加し、「9時学」や「休日自学」なども活用しながら、自学に主体的に取り組む姿勢を確立していきました。演習後の「なぜ間違えたのか」「どうすれば次に生かせるか」といった自己分析を丁寧に言い、理解の質を高めていったことも学力向上に直結した重要な要因です。ただ問題をこなすのではなく、真の理解を目指す姿勢が確かな力を育てました。

また、学習と並行して学校行事や部活動にも真剣に取り組み、仲間と協力した時間を積み重ねてきたことで生活のリズムとメリハリが生まれ、心身の健康と学習への集中を両立できていました。

こうした取り組みを支えていたのがP・M・Tの実践です。自ら計画を立て、学習と生活をバランスよく管理し、規則正しい生活を継続する力は、まさに皆さんの強みでした。皆さんが本校で築いてきたこのような力は、これからの学びの場で大きな支えとなるでしょう。大学ではより自由で専門的な学びが始まります。そこで求められるのは常識を疑う視点や自ら問いを立てて考え抜く力です。「明日への学び」はここから新たに始まります。

現代は先の見通しが立ちにくい時代です。不安に感じることもあるでしょう。そのような時はあわてず立ち止まり、目を凝らしてみてください。そして勇気をもって一歩を踏み出してください。目の前の扉が閉ざされているかもしれませんが、でも大丈夫です。皆さんにはそれをこじ開ける力があります。どうか自分を信じ、自らの道を一歩ずつ進んでください。皆さんのこれからの飛躍を心より期待しております。



学園長

西 和彦

大学合格おめでとうございます。

平均競争率数倍という難関を乗り越けて、勝利した諸君に言いたいことは、これからは競争社会という世の中の非情を勝ち抜いてほしいということです。大学入学で数倍、大学院修士で数倍、大学院博士で数倍、そのあと、例えば大学では、大学講師で数倍、大学教授で数倍、例えば会社でも課長に数倍、部長に数倍、役員に数倍、社長に数倍など合計数百倍の狭き門が当たり前にこの社会です。それを恨んでみても仕方がありません。人を切り落としてゆくことが、長い間に確立されたこの社会の選抜システムなのです。

須磨学園はそういうシステムを否定するものではありませんが、それよりも自己実現とそれによる達成感の満足が最も大切であるという信念に基づき、諸君らが自分の専門を世界レベルにまで高めて、それで社会に貢献してゆかれることを願っています。

自分が上のポジションに進むことができる人は限られた人です。合格によってその一歩を進み始めたそういう人は、自分のことだけでなく、周りの人にも幸せを分けてあげてほしいと思います。それが上に行く選ばれた人の果たさなければならぬ周りへの責任ではないでしょうか。

私は自分のこの70年の人生を振り返ってみたときに、新しいチャンスは自分で掴み取ったのではなく、いつも自分のことを評価してくださった上司や先輩が自分を引き上げてくださったことを忘れることはできません。ぜひ君たちも在学中に学んだ「XYZ・T・心」を大きく、温かくするための考えと、その心で周りの人に接してゆくことの実践を強く期待するものであります。



高等学校教頭

下地 英樹

中高一貫2期生、高等学校5期生のみなさん、合格おめでとうございます。

中高一貫2期生は、開校期を経て教育活動が形づくられていく中で入学し、本校の歩みをさらに前へと推し進めてくれた学年です。日々の学びや学校生活の積み重ねの中で、自ら道を切り拓き、多くの経験と学びを重ねてくれたことと思います。そうした一つひとつの成長の集大成が、今回の大学受験であったのではないのでしょうか。

大学受験は、自身の専門性を決めることから始まります。自分は何が得意で、何がしたいのか。どのような価値観を持ち、社会とどのように関係性をもつか。自分自身と向き合い、自問自答をくり返す中で、自分への理解を少しずつ深めていく時間でもあります。そして、受験勉強は、多種多様な膨大な内容をこなさなければなりません。そこには、計画力、分析力、先を見通す洞察力、自律性、継続力、忍耐力など、さまざまな力が問われます。それだけでも大変なことですが、模試の結果や勉強のつまずきなどが思考を混乱させ、精神的に不安定になる要素も数多くありました。紆余曲折、山あり谷あり、まるで茨の道を進むような日々だったことと思います。そのような道を歩んだ末に、何を得たのでしょうか。

「合格切符を勝ち取り、大学進学を決めた」という成果はもちろんですが、それと同時に、自分自身を発見したことも大きな収穫ではないでしょうか。自分はこれだけのことができる」「あれは苦手だが、これは得意だ」といった認識つまり「自信」です。困難な道を全力で駆け抜けたからこそ得られた、かけがえのない力です。

大学に入学し、新たな生活をスタートする卒業生のみなさん。合格切符を手に持ち、心に自信をもって、これからもさまざまなことにチャレンジし、さらに成長されることを心より祈っています。

合格するにはわけがある 9人の受かった！レポート！



神戸大学
医学部 医学科

宮川 優菜

世界で活躍する医師を目指して

私は小学四年生の時に医師になることを決意しました。中学受験をして夙川中学校高等学校に入学し、医学部に進学するために勉強に重きをおいた6年間の学校生活を送りました。

私が勉強で意識していたことはその日の勉強内容を寝る前に復習するということでした。また受験勉強の中で一番大変だったのは、不安と上手に付き合っていくことでした。皆さんも考えれば考えるほど不安になったり、不安でしょうがない時期がこの先あるかもしれないませんが、私が去年不安に感じていたことはほとんど現実にはなりませんでした。自分は本当に目標に到達できるのかと不安に感じた時には、これは自分が最悪を想定して真剣に取り組

んでいる証拠なのだと思ってみてください。結果がどうなろうと、試験が終わったときに自分ができることは全てやったと思えば、私はそれで大成功だと思います。

ここで、勉強以外の活動について少しお話しします。私は発展途上国の医療問題に中学生の時から興味を持っていたため、実態を学ぶために高校生の間に留学することを計画していました。両親に負担をかけたくなかったので、中学3年の時の担任の先生の協力を得て文部科学省が運営する「トビタテ！留学JAPAN」新日本代表プログラム「の奨学金制度を利用して高校1年の夏にアフリカのタンザニアに留学しました。このときの経験から途上国が抱える問題について知見を深め、様々な地域からの仲間を作ることができました。特に、同じような目標を持ったス

ペインから来た高校生と仲良くなり、今でも連絡を取っており、去年には再会を果たしました。タンザニアへの留学は、将来医師になって一人でも多くの命を救うために貢献したいという思いが一層強まりました。

最後になりましたが、高校三年生での受験勉強では多くの先生に熱心に個別指導をして頂きました。特に、高校3年間お世話になった国語の先生にはお正月も関係なく共通テストの対策をして頂きました。これだけ先生に教えて



大阪大学
工学部
地球総合工学科

藤原 友希

でした。本当に、本当にありがとございました。

量だけは負けない

まず初めに、私が分からない問題を丁寧に教えてくださった先生方、私が不安な時に声をかけてくれたり話を聞いてくれた先生方、進路指導をしてくださった先生方、その他私の受験を支えてくれた先生方に心より感謝申し上げます。本題ですが、私が受験期に頑張っていたことを話します。それは勉強時間を誰よりも確保することです。私は昔から負けず嫌いだだったので、勉強面でも他の人より何か一つでも勝ちたいという気持ちがありました。だから勉強時間だけは一番を目標そうと思っていました。実際に、受験までの1年は1日15時間勉強することができました。そんな私の、勉強時間を確保する方法を紹介します。

まず、早寝早起きすることです。普通のことですが、夜に勉強するとうとうでもだらけてしまいそうなので、私は勉強を朝型に変え、早く準備して少し勉強してから学校でまた勉強していました。私は睡眠時間を確保しないと集中できないので、睡眠時間は確保できるように23時に寝て5時30分に起きていました。次に、ちよつとでも勉強で

もらったのだから大丈夫だと信じて、怖いものなんてない」と確信しながら試験会場へ向かうことができました。そのおかげで私は神戸大学の合格を掴むことができました。私は家族や先生の支えなくしては合格することはできませんでした。本当に感謝しています。合格した時の両親の顔を見て、今までの苦しい受験勉強が報われたのだと実感しました。苦しい時、誰かのためになら頑張れるときがあります。皆さんも、なりたいたい自分になるために、時には遠回りをしてしまっても目標を追い続けてください。陰ながら応援しています。



大阪大学
工学部
電子情報工学科

森本 結宇

良問を徹底的に解く —私の受験戦略

私はもともと京都大学を強く志望していました。しかし、模試の成績は常に芳しくなく、理想と現実のギャップに苦しむ日々でした。高3になっても「絶対に京大を諦めない」と意地を張っていましたが、同時に「絶対に現役で合格したい」という強い思いもありました。悩み抜いた末、私は現役合格を最優先と考え、志望校を大阪大学に変更しました。共通テスト後から私の鬼のような阪大対策が始まりました。

私の勉強法は、少し特殊だったかもしれませんが。というのは、私は過去問にはあまり深く触れず、主に参考書を用いて勉強していたからです。「過去問は所詮過去のものであり、全く同じ問題は二度と出ない」というのが私の持論でした。過去問の存在意義は、あくまで時間配分感覚をつかみ、出題傾向に慣れること。それなら5年分解けば十分です。それよりも、著名な講師が厳選した良問を参考書で数多くこなす方が効率的だと考えました。この主観的なやり方が万人に正しいかはわかりませんが、ただ、理数科目でわからないことについてぶつかった時は、必ず教科書レベルまで戻り、定義や原則を一から見直すことだけは徹底しました。この基礎への立ち返りが、後々大きな力になりました。



大阪大学
外国語学部
ウルドゥー語専攻

田村 実珠希

教えることで理解できた —立場逆転の受験勉強

まずは、夙川での6年間を支えてくださった先生方、両親、友人、そして多くの方々に感謝申し上げます。私の体験が、後輩の皆さんにとって参考になれば幸いです。

私はもともと外国語学部ではなく、将来はメディア系に進みたかったということもあり、別の学部を志望していました。しかし、共通テストの結果を受けて、志望校について改めて考えることになりました。そのときにいろいろな先生方に相談すると、大阪大学外国語学部挑戦するという新たな選択肢を示してくださいました。しかし、外国語学部は他の学部と比べて英語の難易度がとても高く、英語の配点が他の教科よりも三倍もあります。それに加えて私は英語が特別得意というわけではありませんでした。そんな中で、あと1ヶ月で大阪大学の外国語学部の英語に適応しなければならぬというプレッシャーはとても重くのしかかりました。本当に自分はこのまま出願しても良いのかと何度も何度も悩みました。しかし、さまざまな先生方や両親に相談し、挑戦することに決めました。

私は高校2年生の終わりから本格的に受験勉強を始めました。私は家では全く勉強ができないタイプで塾に行

も行っていなかったのですが、7時半から9時までほとんど毎日学校で勉強しました。休日でもできる限り学校に通い詰めました。そんな中で、私が最も意識していたことはいろいろな先生方に個別指導をしていただくことです。日本史であれば、私が先生役となり先生に日本史を授業するような形で個別指導をさせてほしいと相談し、週に2〜3回ほどしていただきました。また、数学や英語では記述部分を自分でどれほど出ているのか把握することはとても難しいです。なので、採点と解説をお願いしていました。

そして共通テスト後からの1ヶ月では英語に全力を注ぎました。外国語学部ではリスニングがあるので、暇さえあれば英語の音声を流し、流れてきた英語を真似して口ずさむように意識しました。また、自由英作文の文章の作り方や和文英訳のコツなど、個別指導で教えていただいたことをノートにまとめ、何度も何度も見直しました。

そのおかげで、本番では一度先生に解説していただいた問題と類似した問題が出題され、教えていただいたことを思い出し解くことができました。

私が経験した中で、私が最も皆さんにお伝えしたいことは、最後まで諦めないことだけではなく、状況に合わせて最善の選択をする勇氣を持つことの大切さです。今まで積み上げてきた努力が全て水の泡になるのではないかと感じたり、逃げではないかと不安になるかもしれません。しかし、それは逃げではありません。むしろ、新たな目標に向かって必死に取り組む覚悟ができるはずです。最後まで諦めない粘り強さと最善を選び取る賢さを持つて、これからの受験勉強に励み、合格を掴み取って欲しいと心から願っています。



北海道大学
工学部
機械知能工学科

平田 詩織

継続と習慣の力

はじめにこの場をお借りして、大学合格にあたって支えてくださった先生方、家族、友人に心より感謝申し上げます。私が北海道大学に合格できた経緯が少しでも後輩の皆さんの参考になれば幸いです。

受験生活を振り返って最も大切だと感じたことは「継続」と「習慣化」でした。特別な才能や短期間で成績を伸ばす勉強法があったわけではありませんが、毎日同じリズムで学習を続けることを強く意識していました。平日、休日を問わず高校3年間ほぼ毎朝5時半に起床し、勉強を始める時間を固定しました。高校3年生では学校に到着してから朝礼までの1時間は必ず机に向かい、放課後は19時まで学校に残って勉強することを自分の中でルールとしていました。また、勉強内容や生活習慣を全てPMTMで管理し、可視化することで迷わず行動できる環境を整えることは一つ一つの小さなことですが、少なくとも1年間継続することで学力向上だけでなく、精神的な自信や自己管理能力が着実に身についたと感じます。

一方で、私は高校3年の6月の文化祭までダンス部に所属しており、その準備期間中は放課後の時間をほとんど

